

創刊500号特集

JWS INTERNATIONAL

次期文明の情報発信地は東経 135 度ラインです。(ガイアの法則) (京都府亀岡市畑野町)



日本UNEP協会

新しい未来へ
環境社会新聞
敬天愛人

不都合な真実 2

「放置された地球」11月17日～全国で放映

残された時間はもうない・・・10年か？

★明年、「西郷（せご）どん」と「500号記念」キャンペーン

～IGES/GISPRI 共催～

「COP23 報告シンポジウム」開催

2017年12月20日（水）13:30～16:20

米国のパリ協定脱会に反対、協定に留まる署名 1,219 名

トランプのパリ協定離脱で深まる分断と孤立、市長や州知事、企業がパリ協定の推進を表明

「温暖化の脅威」を脱する未来の子供たちのために、 みんなで、一緒に行動しましょう！

温暖化の脅威＝自然と人間のアンバランスが原因で起きる様々な異常現象が起きている。

「国際、気候、農業、地域、伝統文化、倫理教育、弱者、産業」

PDF 閲覧用
今月のパスワード
本紙に記載

購読申込みは

↓
発行人：堤九十生
環境社会新聞社
〒621-0262
京都府亀岡市畑野町広野
平井 3-17
☎0771-28-5041
FAX0771-28-5042
M:info@kankyousyakai.com
定価：カラー1部、
年 7,777 円/個人
21,600 円/法人(税込)
モノクロ1部
年 3,888 円/個人
10,800 円/法人(税込)

振込口座：三井住友銀行・
天満橋支店(普)146401
9 ゆうちょ銀行
00960-4-298566

新清流

大河ドラマ「西郷（せご）どん」に思う

神・仏を忘れた人間に最後の審判か？

残す一月で平成三十年、NHKの大河ドラマ「西郷（せご）どん」が放映されると知った時、脳裏に浮かんだのが「敬天愛人」です。

これまで幾度か観た西南戦争の最後のシーンは言い切れない思いが残っています。何故政府に追われ無念の最後になったのか、私は、明治時代の国際政情がどこか似ているように思います。時の明治政府が選んだ方向は富国強兵であり、経済優先でした。その結果が世界大戦での敗戦であり、環境破壊であり、精神破壊となっていました。大半の国民も経済優先

に疑問をもつようになったと同じ思いで放映されるのではと、期待しています。「敬天愛人」が何故、根強く慕われるのか？ 求める社会像がそこにあるからでしょう。元号が変わり時代がリセットされる年でもありません。干支は「戌年」で、西郷どんと犬はセットです。「敬天愛人」を肝に銘じ「天（神・仏）」と大自然と共に生きる人間社会の構築に知恵を絞っていききたいものです。

北朝鮮の暴挙に対しては被害者救済を最優先に、高い次元での対応を願うばかりです。

題字改名について

500号を記念して新時代に相応しい題字に変更を検討しています。ご意見、募集しています。

お詫びと訂正

一部地域配送分に変換ミス、脱字がありましたことをお詫びします。

前号 目次 愛染II 愛善
前号 二十八頁 研II 研究
お詫びして、「ご希望の方に差し替え分をお送りします。」

ご挨拶

新しい未来、新しい文明、新しい環境社会構築へ

東日本大震災の前と後

新たな決意

環境社会新聞は昭和五十一年四月号以来、今月「五〇〇号」に達しました。読者様に心より感謝申し上げます。

十月十四日に先代の故西川弘隆の墓前に報告し新たな決意を致しました。

廃棄物業界・行政に感謝

創刊時の昭和五十一年は公害国会で可決された法案の施行と、廃棄物業界の健全な発展の為に「環境衛生新聞」は創刊、近畿を中心にして全国を奔走しました。なかでも創設者(左写真・故西川弘隆)は廃棄物業界の競争の狭間で体力も情報も乏しい零細の廃棄物業者には特段に懇切丁寧に情報提供や助言など尽力し、行政への取材は疑問点など厳しい姿勢で取材したとお聞きしています。本当にありがとうございます。

今日の廃棄物業界の発展に大いに貢献できたと自負しています。



創刊者 平成 18 年 逝く
故 西川 弘隆

平成十八年継承

私は昭和四十七年父の病が公害病と認定されたことが動機で公害防止管理者の資格を取り、昭和四十八年より大阪府下の中小零細事業所の公害防止の指導として、昭和五十八年頃から「環境衛生新聞」に不定期に寄稿させて頂いていたことで、新聞創刊者の西川弘隆氏と親交がありました。

平成八年より環境省の環境力ウンセラーとして活動している私に、よく激励と助言をくださいました。「環境は儲からんが、やっていけるか」と心配もしてくれました。

事務所を移転するときなど自分から保証人を受けられる懐の深い優しい父親的存在でした。

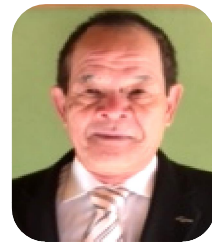
平成十八年八月頃京都市内を一緒に歩いていたら、「足が痛い」とうずくまった時は既に骨肉腫が進行して翌日即入院することになり、九月号は病床での編集、十月号は私が指導を受けて発行した記憶があります。

「まだまだ余命は3、4年はあるからしっかりと教える」との約束で十一月号から継承する約束をした直後、肺炎を併発して、十日後の十月十三日早朝に永遠の眠りにつきました。

素人の私と数人の社員が残され編集者がいない素人の新聞社

広告の受注に奔走する、虚しい日々が続いていた平成二十三年三月十一日午後、東日本大震災が突発したので

転機〜東日本大震災〜



社主 九十生
堤

惨事災難の大きさを見て、お世話になっている方々の安否の確認に動転しました。私は「地震と温暖化の関係」を調べ、全国の環境力ウンセラーの方々と「原子力について」「真のメディアのあり方について」等、メールで議論を重ね、この議論を整理して、メディアの立場で私は何をしているのか? 猛省しました。そして「広告収入に頼らず読者様の支援のみで、新しい未来へ、弱い人達の為の新聞にしよう」と結論を出し、腹を決めました。私は今回の未曾有の地震と多くの犠牲を歴史の転換にしよう、と考えるようになり、過去の大政奉還、明治維新、日清・日露戦争、第二次世界大戦での敗戦に並ぶ、時代転換にしなければならないと深く肝に銘じました。

予期せず、先輩の紹介で高名な石田梅岩先生の教えに触れ、亀岡への移転の天命に気づき、幸運を慶びました。石田梅岩先生の教えは「石門心学」として、江戸時代に全国に広がって日本の資本主義の発展に好影響しています。明治維新以来衰退し、口にする人が少なかったため知る人は少ないのが現状のようです。

「全国の家庭に神棚と仏壇が祀られていることや「三方善し」の商業の精神も石田梅岩先生の教えであったことを知り、忘れられた日本の精神の復活、普及を決意しました。

谷口哲学「生長の家」との出会い

平成二十四年の夏、大阪の八尾市で開催の取材先で、主催者より「次世代への決断―宗教者が“脱原発”を決めた理由」という、書籍を贈呈して頂き、初めて「生長の家」を知りました。

又、十一月頃、茨木市内の取材先で地球の温暖化問題について熱心に語る高齢の紳士に出会いました。

その紳士と考え方、意見が一致し、「ご紹介頂いた平成二十五年三月二十五日の「セミナー」に参加させていただいたのが、同じ生長の家主催の「地方セミナー」でした。これほどに生長の家の方々が環境問題に積極的に取り組んでおられることに嬉しい思いもありましたが、宗教団体の環境活動には疑念も抱いていました。

(次頁へ)

500号で出会った「石門心学」 & 「谷口哲学」 新しい未来へ、スタートラインに立つ

それは、私は十六歳の時から、「父の病の元凶を探るため」・「世界平和のため」との志で、或る宗教団体の活動に熱心に取り組んで来ました。その宗教団体の幹部の方に「環境問題にもっと積極的に勧めて欲しい」とお願いした時「宗教団体が環境問題に口出しすると売名行為になる、あなたたち環境専門家こそがもっと積極的に取り組んで欲しい」との教えでしたので、宗教団体の環境問題の講演には「売名」の疑念を持っていました。

この地方セミナーの講師は生長の家の谷口雅宣総裁でした。

前段での地球の温暖化問題についての認識はほぼ私たちと同意見で、賛同して聞き入ることができました。後段の講演は「宗教の教義」についてでしたので、帰る準備をして会場を出ましたが、私は茨木市内でのご高齢の紳士との義理もあつて、会場を出るとき、「生長の家ってどんな教え」と言いつ一冊の書籍を購入して帰りました。

環境活動と生長の家

書籍のページをめくり読み進めると、驚きと納得の文章に次々と出会い、いつの間にか五回程読み返し、今までの宗教に対する概念が百八十度変化していました。実践すべきことは特定の宗教活動でなく、全人類の光明化目的のまさに全人類が求め、知るべき谷口哲学だと気づいたのです。

環境活動の大義ともいえる説明に

(266頁)ベートーベンの第九を例に挙げて「環境問題とは、人間の心の反映(表現)である現象の一つです。人類が化石燃料を燃やし続け、その量が多すぎるといふ問題です。それは喩えて言うならば「第九」は完成しているのに、それを演奏しつづめる者が間違つた音を出し続けているようなものです。」と私は第九を良く聴くので特にこの説明に得心できたのです。

環境問題の解決に哲学・宗教は不可欠と得心できたのです。

「生命の実相」(四〇巻)の力

私はその後、この生長の家が、神髄とし、聖書と同じと言っている、生命の実相を一巻から熟読開始し平成二十八年二月二十一日に四十巻読了しました。読んでいる間に実に不思議で奇跡的な出来事、現象を体験したのです。別の機会に詳しくお話しするとして、①長崎の霊能者より私と新聞の使命や、プレアデスの技術について②顧問先の難問題が「生命の実相」の文章の力で解決した③交通事故に遭遇したが加害者から一転被害者に④孫の出産が第四十巻読了の翌日(四十巻に安産について記されている)。等、実生活に反映される不思議な体験をしたのです。

万教帰一と石田梅岩

私は、生長の家の会員ではありません

せんでまだ正しく理解しているとは思いませんが、谷口哲学の万教帰一(すべての宗教は一つに帰する)という概念。引用：ウイキペディア)と石田梅岩の神儒仏の三教一致(神儒仏の「習合」といふ捉え方、引用 佛教大学大学院紀要 黄海玉氏 「石田梅岩の神儒仏習合思想」に関する一考察)を読んだときどこか繋がっているような気がしています。

温暖化とその脅威

温暖化は今も進行しています。一部に温暖化を否定する人もいますが、皆様が直接感じておられるような異常気象は多くの科学者の予測にあるように、温暖化による現象に間違いありません。

「世界全体で私たちは大気中に二酸化炭素を年間七十二億炭素トン(炭素換算、以下同じ)。出し、森林、海洋、陸地に年間三十一億炭素トンを吸収されていますから、半分以上は大気中にたまってしまいます。毎年毎年、この差が大気中に蓄積していきます。これが温暖化を起しているのです。ですから、私たち人間が出している量を地球の吸収量(現在は三十一億炭素トン)以下に減らさないかぎり、温暖化は進行します。」(出典「日刊温暖化新聞」(発行日不明))

今後、予測できない脅威、災害が起きる可能性があるのです。

科学者、宗教者、研究者、市民生活家と一つになって

私は環境カウンセラーとして、技術者として、新聞編集者として、幸いに国際的な科学者や研究者の声を直接聴ける環境にいます。全ての方が、予想される人類の危機の回避のため、未来の子供たちのためにその知見を活かして精力的に世界を走り回っておられます。皆、素晴らしい人々です。

大河ドラマ「西郷どん」

「敬天愛人」に懸ける未来

来々平成三〇年一月よりNHKの大河ドラマが敬天愛人で知られている「西郷(せごん)どん」だそうす。「西郷南洲翁遺訓」によりますと、**敬天愛人とは「道は天地自然の物にして、人は之を行ふものなれば、天を敬するを目的とす。天は人も我も同一に愛し給ふゆえ、我を愛する心を以て人を愛する也。道というのはこの天地のおのずからなるものであり、人はこれにのっとって行うべきものであるから何よりもまず、天を敬うことを目的とすべきである。天は他人も自分も平等に愛し給うから、自分を愛する心をもって人を愛することが肝要である。」**とあります。明年は特にこの敬天愛人を掲げて人類の光明化運動を進めていく決意です。

読者の皆様の温かい、「理解」ご支援をお願い申し上げます。(以上)